

氷川瑣言

比路志生

大東亞の建設と民族の福祉

東條首相は第八十二回帝國議會で施政演説を爲された其一節に滿洲國と帝國との交誼は、眞に間然する處なく帝國は益々其の信倚に應へ健全なる發達に力を效し、日華間の條約に根本的改訂を加へて完全なる自主獨立の國たらしむべく、米英との複雑機微なる關係を一擲、敢然帝國と提携しある「タイ」國には、同國發展のため「新なる協力を爲すの用意あることを」明示し、ビルマにおいては獨立準備委員會が結成され「歴史的光榮の日の速かなること」を強く待望する旨強調されてゐる。

特に、比島には「本年中に獨立の榮譽を與へん」とする確約が提唱されたのは注目を要し、マライ、スマトラ、ジャワ、ボルネオ、セレベス等の原住民に對しては、教育、文化の諸施設が次第に整頓されつゝある外、本年中にその「政治參與」に關する措

置を講ずとの言明を試みた。その内ジャワには能ふ限り速かに之が實現を期すると云つてゐる。佛印が共同防衛に關する日佛議定書の精神に基き、益々關係緊密を加へつゝあることをも顧みれば、萬邦をして各々その所を得しめ、兆民をして悉くその堵に安んぜしむる肇國大本の國策遂行を具現化したるものである。實に雄渾なる大東亞宣言である。日本の大東亞戰爭完勝なくして、大東亞の解放なく、新しき大東亞の建設なくして大東亞民衆の福祉なしと斷言し、大東亞戰略の要諦を明示した。滿洲、中華民國は勿論ビルマ、比島、インドネシヤ、泰、佛領印度等共榮圈内の諸地方民衆に歡喜、感激、昂奮を與へたるは洵に故なきことでない。

隣保の制

隣組制度は最も重んずべきもので隣保團結を鞏固にし交隣協力の實を擧げると共に、他の隣組との親和聯合を計ることの強調せ、

らるゝのは當然の事である。獨り地方自治制度の根柢たるのみでなく國家に取りても不可缺事に屬する。家を源として成立つ處に隣交親和を期し得るのである。況んや此勝ち抜かねばならぬ決戦時下に於ては更らに更らに交隣結集の精神を貫徹し、相互共助の途に出で吾れも人も其處に一團となつて戦ふべきである。ちいさな、けちくさい感情や行懸りやに支配されて相剋軋轢を爲し、我儘を振舞ひ物議を醸すが如きは眞に唾棄すべきの行爲である。極端に言へば非國民の仕業である。斷して許すべきものでないものである。

町内會部落會の使命

町内會、部落會の運営如何は士氣に關すること甚大なるものがある。今や我邦は太平洋の南に北に西に東に印度洋に於て米英に對する戦局は愈々決戦期に入りたるの觀を呈し眞に國運を賭しての戦である。此秋銃後に在る國民は國力結集の任務を負ふのであるが、其の布陣は果して完璧を得ておるのであらうか、局部的に視れば遺憾の點が少なくない。即ち町内會部落會の如き夫れである。都市町村の細胞組織として町内會部落會が如何に重要なるかは少しく世態の認識あるものゝ、等しく首肯する處である。然るに町内會部落會の使命が物資の配給にのみあるが如き感を以て事を處理する疑ひが多分に生起する。實は斯の如き消極的方面に止

まらず積極的方面、即ち防空要塞的役割とか、道路の維持修繕とか、防火陣とか、其の外大なる使命が存することは明々白々の事實であつて少しく理義を解する者の等しく認むる所である。其處に實際に疑ありて質問するも毫も答ふる所なきが如きは如何耕長、町會長、部落會長は勿論之が監督指導の任に當る者も熟考すべき問題である。

國民訓

國民訓が必要だと唱ふるものがある。實にさもあるべきことである。蓋し國民訓の制定を唱ふるものは現今我國民として戦時生活にふさわしからぬ生活の甚だ少からざるを認むる。即ち各種宴會の如き、招待會の如き祝賀式の如き、慶弔の酒宴の如き、遊興と、ごまかしと、屁理屈と、おしやれの如き、某々統制會、配給會社官腦部の生活振の如き毫も戦時生活にそわざる豪華な生活はどうしたことかといふ處にある。苟くも世の指導者の地位に在る者は千思も萬考も費やす必要はないか。戦時戒律を國民として之を實行に移すべしだ所論一讀判明すること明かであらう。

宴會の不必要

率先垂範一般國民の先頭に挺身すべき官吏が一段と其の職責を重んじて、其職務に忠實にして官吏たるの道を全ふすべきは敢て言

を費やすの要がない所である。率先陣頭に立ち職域に邁進することと決戦生活を實踐躬行することは申すに及ばぬ所である。さるにても國民一人一人が戰爭目的完遂の爲めに或は廢轉業を爲し或は缺食することを忍び、極端に貯藏米の供出を敢てして努力する點に鑑みるときに、公私宴會の不必要を唱へざるを得ざるの感がする。宴會なくとも事務の打合せや協議や相談は出来る。政治は待合よりとは不埒千萬の言である。平時にあつても宴會に出席して御馳走を受くるが如きは戒慎すべきであるのに、特に戰時に在りて物資缺乏の今日宴會など開催するのが自覺の足らざる苛烈なる決戦をなしたつゝあることを忘れたる徒輩の企つる處である。夫れに官吏が宴會に絶対に出席せずと申合はずが如きは其の誠意の程が疑はるゝのである。申合せを爲さずとも各自が其の決意實行を爲せば充分である。吾人は公私宴會の不必要を徹底することが今日の急務にあらずやと思ふのである。

新古課題の選擇

人間といふものは兎角新しいものを追求して舊いもの手持の物を忘れ勝ちで其の大切なことを思はない傾向がある。新しい懸案が生ずると忽ち夫れに没頭し、從來のものが如何に大切であらうと之を等閑に付する嫌がある。例へば滿洲問題が起ると北海道拓殖が忘れらるゝ、支那事變が生ずると北南中支の研究に急で滿洲

が忘れ勝ちになる。大東亞戰爭が始まると西南太平洋の地圖を擴げ其處に群がる鳥々を論究してまた支那大陸のことを省みないのである。之れが果して健全なる國民の態度であらうか。元より新しいものを追ふは決して悪しきことでないが、夫と共に舊き問題をも忘れず不斷に考究すべきである。うわすべりの態度や心構は大に改むべきものである。

官民一致と親心

官民一致とか軍官民協力とか機會あることに強調せられて居る。夫れが極めて大切緊要な事柄であることは永井柳太郎氏が「官吏と人民との一心一體一億敢闘熱意に燃えて戦力増強に協力し得るやう速かに官界新體制を確立せられんことを期待且つ祈る」と又「計畫經濟の實施に伴ふ官吏責任感の強化に付て一段の努力を要する」と述べ、伍堂卓雄氏は「統制經濟の成績が十分學がらぬ主な原因の一は官民協力が缺くる所があつた爲めだと思ふ」と説き官民一致協力の強化を論じて居るのを見ても、多言を要せずして明かな所である。軍とか官とか民とかの差別は或る場合には必要である。だが理想的に言へば其の區別乃至差別の意識を完全に消滅することにする外はない。官民一致と云ふが如き標語を不必要とすることが眞の姿であることが望ましい。元來が高官者も民衆も同一の臣民である。唯其の職域或は役割を異にする

のみで官といふも尊きにあらず、農といふも卑しきにあらず故に國民といふ一體的關係に立つて考ふるときに何處に官民といふ差別があるか。官の親心とかいふ語は既に屢々耳にする所である。我邦に於ては畏くも國民にして情に於て父子の如き關係をもたるとは、至尊にして親心といふは國民に對して仰せらるゝ御言葉である。臣民相互間に於て父子の如き關係はあり得ない。皆兄弟であり、姉妹である。故に大臣といへども妄りに國民に對して親心といふ語は用ゆべからざる所である。彼の官僚が國民に對して親心といふ語を用ゆるは高慢にも已れは一段と一般國民の土位にあるといふ意識から不識不知之を發するのであらう。慎むべく戒しむべきことである。

儀禮章と衣料簡素化

衣料簡素化に關し、政府は戰局の現段階に對處し、清新強健なる衣生活の面を通して、國民士氣の昂揚と國民體位の向上を圖り必勝への綜合戦力増強を期せん」と企て、戰時衣生活簡素化實施要綱を發表せられた。相當思ひ切つた衣生活の簡素化を計り、高級品及び不必要品の生産を壓縮すると共に、使用纖維量全體を節約すべき方法を講じておるのは至極機宜を得たる措置といふべきである。特に末梢形式的衣料簡素論を例へば何んでも彼でも茶褐色にせねば戦争は勝てぬといふが如き行過ぎた行爲を排してお

る所は頗る我意を得たるものである。國民服も甲號を廢して乙號のみを採用したるは當を得たる措置なるも、今日新に製服せんとすれど服地は缺乏し、良し服地ありとも所謂開相場に制せられ容易に作ることを得ざる實際の状況である。無より有を生ぜしむるは言ふべくして行はれざるの甚しきものである。故に吾等は更に進んで男子服にも女子服にも恰當の儀禮章を制定し、之を附すれば當分の間モーニングでも春廣服でも羽織袴でも、從來のものを活かして使用せしむる觀點から冠婚葬祭に着用し得ること、せば一層衣料簡素化の趣旨を徹底し、無駄を省き眞に簡素化の味をあふふこととなり、國民の士氣意氣込みにそふこととなるであらう。政府當局は此に悟る處ありて可ならずやと叫びたくなる。

噫アツツ島の壯烈なる殉國

アツツ島に於ける我守備隊の悲壯なる最期には萬感胸に迫るものがあり、眞に鬼神をも泣かしむるものがある。救援の兵を何故に送りざりしか送り得ざりしか否やは別問題として、最後に至るまで、一兵の増援をも求めなかつた、一發の彈藥の補給をも願はなかつた、その一事は特に吾々の感を深くし、通信斷絶の虞れあるを以て機を逸せず取敢ず觀察事項を報告す」といふに至つては何といふ立派な心事であらうか。悲壯な出來事であらうか。敵は幾十倍あるも意に介せず、ひたすら與へられたる使命を遂行するの絶對的責任感のみの發露にすぎざるの動作と精神は何んといふ崇高であらう、噫。